

① 坂東省次 著

『スペインを訪れた日本人： エリートたちの異文化体験』

(行路社)

本書は、スペイン文化省の「グラシアン基金」より助成を受けて、本学の坂東教授が執筆された本です。鎖国時代を経て、日本とスペインが国交を再開した1868年に最初の日本人としてスペインを訪れた高野広八氏から、1967年に訪れた作家五木寛之氏まで合計21人の日本の知識人たちのスペイン体験が記されています。それぞれの人の生い立ちや、その時代背景なども書かれていて、とても幅広い内容のもので、スペインの情熱的な文化を一度に数多く知ることができる一冊です。

210.18-Ban (N.K.)

③ ピーター・ミルワード 編著 橋本修一 訳

『ミルワード氏の英文学散歩： ルネッサンスから現代へ』

(春風社)

本書は、ルネッサンスから現代までの作家の中から、ミルワード氏が一人一作品に限定して代表作を引用し、解説を加えた文学選集です。中世以前は別にして、それ以後の英文学の流れを概観するのに大変便利な本です。

著者の解説は、英文学辞典や百科事典では得られないユニークなもので、作家たちの人生と思想だけでなく、彼らの生きた時代の出来事や思想にまで触れています。

930.2-Mil (F.O.)



② スティーヴン・ファリス 著 藤田真利子 訳

『壊れゆく地球：気候変動が もたらす崩壊の連鎖』

(講談社)

近年、地球温暖化により世界中で従来では考えられないような大災害が多発しています。この異常気象は、私たちの生活が向上した結果、その負債として吐き出した二酸化炭素が、オゾン層を修復出来ないまでに破壊し、地球が温度調節できなくなった結果がもたらした現象です。地球はこの異常をずっと以前より私たちに警告していたのですが、その異常に気づかず、地球が末期的な悲鳴を上げている今、愚かな私たちにどんな地球の修復手段が残されているのでしょうか。

本書では、この気候変動を止めるために、私たちが残された限られた時間にどれだけ真剣に取り組むことが出来るのかを課題とされています。

519-Far (F.T)

④ 紅山雪夫 著

『添乗員ヒミツの参考書魅惑のスペイン』

(新潮社)

長年旅行作家としてヨーロッパを持ち場にしてきた著者が書いたスペインの歴史・観光ガイドです。本書では、マドリッド周辺や、アンダルシアやバルセロナなど日本人がツアーなどで比較的良好に行くところを中心に解説されています。

「歴史的な背景がよく理解できていれば、旅の感興はいっそう深くなる」という著者の信条により歴史の説明には、特に重点が置かれています。お決まりの観光コースのみならず、著者が徹底的に歩いて回った見どころもたくさん書かれているので、海外旅行の添乗員にも広く読まれ、「この本は、添乗員秘密の参考書であり、必携書である」とまで言われた添乗員お墨付きの歴史・観光ガイドです。さあ、この1冊を読んで皆さんもスペインのスペシャリストになりませんか!

293.6-Ben (S.S.)